



名称は、岡山城の後に作られた園という意味で後園と呼ばれていましたが、「先憂後楽」の精神に基づいて造られていることから、明治4年(1871)後楽園と改められました。

# 日本三名園の一つ、岡山後楽園は 世界に誇る文化財

岡山後楽園は、岡山藩主池田綱政公が家臣の津田永忠に命じて、貞享4年(1687)に着工、元禄13年(1700)には一応の完成をみました。その後も、藩主の好みで手が加えられましたが、江戸時代の姿を大きく変えることなく現在に伝えられました。また、江戸時代の絵図や池田家の記録、文物が数多く残され、歴史的な変遷を知ることができる、地方では稀な大名庭園となっています。

後楽園は、かつて藩主の静養の場、賓客接待の場として使われましたが、日を定めて藩内の人々にも観覧が許されていました。明治17年(1884)に岡山県に譲渡され、一般公開されました。昭和9年(1934)の水害、昭和20年の戦災では大きな被害を被りましたが、江戸時代の絵図に基づいて復旧をおこないました。昭和27年には文化財保護法による「特別名勝」に指定され、後世に伝える歴史的な文化遺産として維持管理にあたっています。



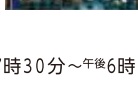
●岡山ICから車で20分(約8km) 写真 難波 由城雄  
●JR岡山駅から徒歩25分(約1.8km)  
市内電車 東山行で4分「城下」下車徒歩10分  
市内バスで15分「後楽園前」下車すぐ



**岡山後楽園** <http://www.korakuen.mobi/>  
〒703-8257 岡山市北区後楽園1-5  
Tel 086-272-1148 Fax 086-272-1147  
<http://www.okayama-korakuen.jp/>

## 四季催事

**冬**  
1月1日 新春箏曲の会  
2月上旬 芝焼き  
2月下旬 松のこも焼き



**春**  
3月2日 開園記念日  
4月第一または  
第二日曜日御神幸  
4月下旬 栄西茶会  
5月第三日曜日 茶つみ祭

**夏**  
6月第二日曜日 お田植え祭  
7月第一日曜日 観蓮節

**秋**  
旧暦8月15日 名月観賞会  
10月上旬 岡山後楽園で能を  
たのしむ会  
10月下旬 松のこも巻き  
10月下旬～11月中旬 菊花大会  
11月3日 後楽能

■開園時間 3月20日～9月30日 午前7時30分～午後6時

10月1日～3月19日 午前8時～午後5時

■入園料 大人(15歳以上65歳未満) 400円  
小人(5歳以上15歳未満) 140円  
65歳以上 140円  
団体(30人以上) 2割引

■共通入園料 後楽園・県立博物館 大人520円  
後楽園・岡山城 大人560円 小人260円  
後楽園・岡山城・林原美術館 大人960円

●休館日、特別展開催中(準備期間を含む)は発売を中止します。

■年間パスポート 大人2000円 小人800円  
65歳以上800円

■駐車料金 普通車 1時間 100円  
バス 1日1回 600円

## 特別名勝

# 岡山後楽園





# 夏

## 庭園のこころ、新世紀へ

# 秋



# 春

## 四季爛漫

# 冬

### 三百年の歴史が息づく後楽園

岡山後楽園は、江戸時代を代表する大名庭園の一つです。延養亭や能舞台を中心とした亭舎、園内各所に置かれた茶室や祠には、歴代藩主の思いが込められています。広い芝生地や池、築山、茶室が園路や水路で結ばれ、歩きながら移り変わる景色を眺めることができるよう工夫された回遊式庭園です。

流店と花菖蒲畑

南門側から園内を望む

- 9 **流店** 亭舎の中央に水路を通し、中に美しい色の石を配した、全国でも珍しい建物となっています。かつては、藩主の庭廻りの時に休憩所として使われ、簡素なたたずまいを伝えています。
- 7 **廉池軒** 園内に点在する亭舎の中で、池田綱政が最も好んで利用していたものです。廉池軒からの眺望は、水の景色に優れています。
- 10 **八橋** 八橋に添えてカキツバタが植えられています。この組み合わせは、『伊勢物語』の「東下り」にちなんだものです。
- 8 **唯心山** 園内を見渡せる築山。ツツジの咲く頃は絶景となります。
- 11 **花交の池** 花交の池周辺は、築庭当時のヤマザクラや花木を中心とした景色でした。花交の滝に花が映えて美しい様子を詠んだ和歌も残っています。園内を巡ってきた曲水の水は、この池から旭川に戻っていきます。
- 12 **茶祖堂** 幕末の家老の下屋敷にあった利休堂を、明治20年頃に移築したものです。戦後再建され、岡山の生まれで「茶」を日本に伝えた栄西禅師も一緒にまつられたことから「茶祖堂」と呼ばれるようになりました。
- 13 **梅林** 早春、他の花に先駆けて、紅白、一重、八重と約100本の梅が咲き、香りをただよわせます。
- 14 **千入の森** モミジが100本近くあります。春の新芽の芽吹きのと、錦を織りなす秋の紅葉は絶景。園内名勝の一つとなっています。
- 15 **井田・井田のハス** 井田は、かつて園内に広がっていた田畑のなごりで、中国周時代の田相法にならい幕末に形作られたものです。2000年の時を経てよみがえった大賀ハスは6～7月頃が見頃です。



- 1 **延養亭** 藩主が後楽園を訪れた時の居間として使われました。沢の池、唯心山、借景の操山と、園内外の景観が一望できる、後楽園の中心的建物です。
- 2 **能舞台** 能に熱心であった池田綱政は優れた舞手でもあり、能装束の名品を数多く残しています。時には、藩内の人々が拝見を許されることもあり、現在の建物は戦後再建されたものです。
- 3 **二色が岡** 築庭当時は、春はサクラ、秋はモミジで彩られた林でした。戦後に杉の木立となり、市街地にあっては珍しく、野鳥が多く飛来する場所となっています。
- 4 **花葉の池** 東には花葉の滝があり、南西岸には元禄時代初期に巨岩を九十数個に割って運び、元の形に組み上げた「大立石」があります。6～8月頃には白いハス「一天四海(通称大名ハス)」が見頃となります。
- 19 **鶴舎(タンチョウ)** 築庭当時から鶴が飼育されていましたが、戦後絶滅しました。岡山の旧制第六高等学校に学んだことのある中国科学院院長の郭沫若氏からタンチョウ2羽が贈られました。その後、釧路市の協力もあり、多くが生まれ育ち、その美しい姿が園内によみがえりました。
- 20 **馬場・弓場** 後楽園は、藩主の楽しみ場としてだけでなく、文武両道を怠らぬよう武芸の稽古場も設けられています。観騎亭・観射亭などは、藩主が家臣の馬術・弓術をご覧になった所です。

**曲水** 昔は旭川の5km上流から後楽園用水を引き、対岸からサイホン原理を応用して園内に水を引き入れていました。その水を池や滝に上手に利用し、優れた水の景色を作り上げています。

### 芝を大量に使った庭

日本に広く自生している野芝を使った、明るく広々とした庭園です。築庭当時、芝は沢の池西側の延養亭から見える範圍にだけ使われ、園内の大半は田畑でした。園全体に使われたのは明治以降のことです。

■全体面積	約4万坪 (133,000m <sup>2</sup> )
■芝生面積	約5,600坪 (18,500m <sup>2</sup> )
■唯心山	高さ6m
■曲水全長	640m

- 16 **茶畑** 美しい丸刈りの列が続く茶畑。茶葉はやや苦みの強い古種です。
- 17 **慈眼堂** 慈眼堂は池田綱政が藩内の平安と池田家の安泰を願って建立したお堂です。現在は山門に、平成12年に修復された仁王像が安置されています。
- 18 **沢の池** 園内で一番大きな池で、中には島茶屋のある中の島、釣殿のある御野島、白砂青松が美しい砂利島があります。

沢の池の雪景色

